

平成 28 年度 第 1 回 富山市観光戦略プラン策定委員会

日 時 平成 28 年 8 月 29 日 (月) 14:00～

場 所 富山市役所 8 階 第 3 委員会室

出席者

(委 員)

金岡 省吾 富山大学地域連携推進機構 副機構長・教授
高橋 光幸 富山国際大学現代社会学部 教授
鶴殿 裕 日本政策投資銀行 富山事務所長
中田 邦彦 富山地方鉄道株式会社 専務取締役 兼 企画部長
西尾 敏 全日本空輸株式会社 富山支店長
富田 光國 富山商工会議所 理事・事務局長 企画総務部長
喜多 美月 公益財団法人富山コンベンションビューロー 事務局長
佐近 成昭 富山市観光協会 事務局長
古邸 幸裕 株式会社 JTB 中部 富山支店長
森田 由樹子 株式会社エコロの森 代表

(オブザーバー)

松丸 祥子 富山市企画管理部広報課 (ANA 総合研究所) 富山市地域づくりマネージャー

(事務局) 富山市観光政策課

(コンサルタント) 株式会社ラックス

議 事

1. 開会
2. 挨拶
3. 委員紹介
4. 委員長、職務代理者の選任
5. 議事
 - (1) 富山市観光戦略プラン スケジュールについて
 - (2) 富山市観光戦略プラン (素案) について
 - (3) その他
6. 閉会

<資 料>

1. 富山市観光戦略プラン策定委員会 席次表
2. 富山市観光戦略プラン策定委員会 委員名簿
3. 富山市観光戦略プラン策定委員会 設置要綱
4. 富山市観光戦略プラン スケジュール
5. 富山市観光戦略プラン (素案)

1. 開会

2. 挨拶 上谷部長 挨拶

3. 委員紹介 各委員自己紹介

4. 委員長、職務代理者の選任

要綱第3条 第2項により、富山大学の金岡教授に決定。

要綱第3条 第5項により、富山国際大学の高橋教授に決定。

5. 議事

(1) 富山市観光戦略プラン スケジュールについて

(2) 富山市観光戦略プラン（素案）について

事務局 富山市観光戦略プラン スケジュール、富山市観光戦略プラン（素案）に基づき一括して説明。

金岡委員長 事務局からの説明では、今回のプランは、新幹線開業効果の持続や東京オリンピックに向けたインバウンドへの対応について戦略的に考えていきたいという形になっており、それを踏まえたデータの解析がいろいろと示されていた。皆様の経験上から、現状の課題の捉え方、戦略のポイント、観光像等に関する意見を伺いたい。

高橋委員 基本的に事務局の案に異議はないが、あえて言うとなれば4点ある。1点目として「選ばれるための魅力づくり」は素晴らしいが、そのためにどうするかが大変重要だと思う。富山はイメージがあまりないというのが現状だと思う。今、都市観光において重要とされているのは、文化、絶えず変化すること、夜の魅力等がある。それらをどのように作っていくのか。2点目は、観光戦略において重要なのはマネジメントする組織である。資料にはDMOとあるが、本当の意味でマネジメントできる組織を作っていくことが極めて重要である。3点目は、いきいきとした情報の発信である。ジャパンガイドのような鮮度の高い情報をどのように発信していくかが重要である。4点目は、域内経済循環の仕組みをどうやって作るかである。それには域内調達率、家計の収入増加、域内購買力の向上や合併した中山間地域の経済循環の仕組みづくりが重要である。もう少し旧大山地域などの滞在型観光についての記載があっても良いのではないかな。

鵜殿委員 戦略として大事なものは、まず自分たちの魅力を定義し、そして顧客を定義して、その人たちに魅力をどう伝えるかであるはずだが、その部分が見えなくなっている。いろいろ言いたいことがあるが、その中で2つ質問がある。1つ目は、スケジュールは資料のもので確定なのかということである。現在策定中の市の総合計画との整合性を図る必要があるかと思う。また、計画期間が5年となっているが、東京オリンピックで区切ったり、その先を見据えるのであれば、もっと長い方が良いという考え方もあり、焦る必要はないと思う。2つ目は観光像についてである。観光は官民一体となって同じ方向を向いて取り組む必要があるかと思うが、提案された「創造と交流のゲートウェイシティとやま」で同じ方向を向けるのか民間の方々に意見を伺いたい。現行プランの「豊かな自然の中で輝く人間交流都市とやま」や県が示したものの、「立山あおぐ特等席」、「AMAZING TOYAMA」等既存の良いワードがたくさんあると思う。

事務局 策定スケジュールについては、今年度中に完成すれば良いと考えている。委員会は 3 回とさせていただき、必要に応じて資料送付を行う等して臨機応変に進めていきたいと考えている。目指す観光像については、提示した案は、議論する上でのきっかけとして示したものである。ゲートウェイとしたのは、富山市が目指す「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」を活かしたものにしたいと考えたものであり、変更することは全く問題ない。総合計画も 11 月頃には案が示されると思うので、総合計画とも整合性のとれたものにしたいと考えている。

中田委員 先ほど立山黒部アルペンルートがキラーコンテンツだという話があったが、立山は 4 月から 11 月までしか開いておらず、観光産業において、半年間休みがあるというのは、あり得ない話である。いかに通年観光を行うかが大事なのに、その記載がない。富山の観光は自然に頼る部分があるので、冬の対策をどうするのか、雪景色をどう見せるのかが重要である。また、訪日外国人については、確かに増加はしているが、それでも全体の 2 割程度であり、8 割は国内客なので戦略は国内向けと外国人向けを明確に分けるべきではないか。

西尾委員 提案された案は良いと思うが、ただ富山県や他の全国の地方自治体が作っている戦略との違いが分からない。どこも自然や食べ物を売りにしている。私が考える富山の強みの 1 つは、富山を中心とした 2 時間圏内の円を描いたとき、その円の中に県内外の沢山の観光地があるということである。その観光地を訪れる人々は、うまくやれば皆富山市で宿泊するはずである。今は何らかの事情で宿泊していないかもしれないが、その仕組みさえ作ることができれば、富山市の魅力だけでなく他の地域の魅力も観光化ができる。その意味では、もっと尖った戦略でも良いのではないか。現在の富山市は、環境や国際都市としての良いイメージができていて、ターゲットをどこに設定するかが重要である。数を作ろうと思えば中国をターゲットとするのが一番簡単だが、それが富山市の目指す方向に合っているのかは疑問である。おそらく欧米の方が合うと思うが、その人たちへどのようにアプローチしていくのか、何を求めているのかが重要になってくる。国内においても、一般観光客から富裕層まで様々だと思う。総花的な計画は県に任せて、富山市はもっと絞り込んでも良いのではないか、それが結果として富山らしさに繋がると思う。

金岡委員長 富山らしさを考える上でのヒントがあったかと思う。インバウンドであればどの国をターゲットするのか。私は田辺市に関わりがあるが、田辺市はヨーロッパの国の観光客が多い。しがたない民宿が外国人対応を通して生き返った事例もある。

富田委員 資料を見た中で、観光像が抽象的でわかりづらい印象を受けた。もっと心に響く言葉があるのではないか。その説明をみても総花的な内容となっている。計画期間とされている 5 年後にどうありたいのかを示せばいいのではないか。また、産業観光の記述があったが、その中で重要なことは、具体的にどのように産業を活用していくのかである。新幹線の開業で一般観光客も増加したが、ビジネス客も増加しており、今後も一定割合を占めると思う。そのビジネス客に対する産業観光をどのように行うかが 1 つのポイントになると思う。ビジネス客に対応するのは受け入れる会社の従業員であり、その従業員が自社の魅力や富山市の魅力をアピールできるよう、育成していくことが重要である。

金岡委員長 私が以前に名古屋でブラザーという会社の産業関係の受入れに携わった。その当時は産業スパイ等の問題があったが、今はその問題はないと思う。

- 喜多委員 インバウンド対応の記述があるが、コンベンションにおいても国際会議が少しずつではあるが増加しており、来年、再来年も 1,000 人規模の国際会議の予定がある。コンベンションビューローとしても国際会議に対応した施策を考えているところである。受入態勢の整備の課題として、まちなかのお店をどう巻き込んでいくかが重要であり、また、難しく感じている部分でもある。例えば会議の参加者が昼間にお寿司を食べようとしても、17 時前に開いているお店がない。せっかくの地域資源が活かされていないので、受入態勢の整備を明確にしていきたいと思う。
- 佐近委員 観光振興の課題の中に OECD の記載があるが、これは富山市が注力しているものの中の「環境」という分野である。富山市は、環境に関する国からの認定を 2 つ受けている都市である、OECD をはじめとするいろいろな国から認められているので、市が進めている「環境」という言葉を観光戦略のポイントの中に入れていただきたい。環境は富山市の売りの 1 つになるのではないかな。
- 古邸委員 富山市のまちづくり政策は国内だけでなく世界でも評価されているので、観光政策もそれに連携・連動しながら、それを観光資源にしていくことが重要である。また、産業観光や美術館等非常に良い物があるので、それらをどうストーリー化し、PR していくかが重要ではないかと思う。戦略を担う組織においては、戦略をどう実践していくのか、検証していくのが重要である。成果を上げるために、行政だけでなく、民間も一体となって、誰が、どのように、いつまでに行うかを明確にすることが必要である。プランを策定するだけでなく、そこからどう実践して成果を出していくかが重要である。広域観光においては、今、金沢、白川郷、高山等による広域連携の「3 つ星街道」の認知度が上がっている。富山市は岐阜と組み、富山、八尾、神岡、高山をルート化してはどうか。高山は日本でもトップクラスのインバウンドで成功した市なので良いのではないかな。富山に期待するものとして「食」があるが、お客様に勧められるものは意外に少ない。本当はたくさんあるのが、発掘できていないだけかもしれないので、富山の食をブラッシュアップしていくべきである。また、3 日間しかないが、八尾のおわら風の盆は街並みも含めてキラーコンテンツになり得ると思う。
- 森田委員 私は観光とまちづくりは表裏一体のもので、お客さんが行きたくなる町があつてこそこの観光であると思っている。その中で富山市がどういう町でありたいか、どういう人が来てほしいかを考えるべきである。観光戦略は、行政が作った行政のものではなく、民間の事業者も一緒に 1 つの目標に向かって歩んでいけるような分かりやすいものとするべきである。ゲートウェイシティという言葉ももう少し温かみのあるものにした方が良いのではないかな。
- 松丸
オブザーバー 私は瀬戸内出身なので、どうしても日本海側に地理間がなかった。北陸新幹線の開業で少しは認知度が上がったが、まだ黒部や五箇山が富山だということを知らない CA もおり、2 時間圏内に県内外のいろんな観光地があるということの認知度が低い。富山市は広いので市の職員さえも市内の観光地へ行けていない。近隣都市との連携という観点では、旧大山地域やその隣の立山町の自然も大変魅力的である。
- 金岡委員長 私の海外の友人は、魚津や八尾を新潟だと思っていた。また、私も出身は瀬戸内だが、皆富山がどこにあるか知らない。今日いろいろなご意見をいただいたが、これはきっかけだと思うので、事務局は委員全員にヒアリングしても良いのではないかな。今日伝えきれなかった部分は、電話やメール等を使って事務局へ伝えていただきたい。

6. 閉会

以上